



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年

標語

感謝の百年
希望の百年

(テサロニケ第1/5:18)

1963年9月20日 第3種郵便物許可 (毎月一日発行)

2016年10月1日(土) 第756号

発行所 福音新聞社 (1部100円)

〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3202-5398 info@kccj.jp

発行人/金性済・編集人/金柄鎬

印刷所 青丘文化社

全てが有益に変わる「従順」

＜ルカによる福音書5:12～16＞



韓世一牧師 (神戸教会)

私たちは教会で「従順」という言葉をよく耳にします。私たちが主の御前に捧げる全ての礼拝も「どうすれば私たちの心と体で神様に対してもっと従順になれるか」を共に考える時間ではないかと思います。

そこで、本日の御言葉を通して、「従順」はいつまでしななければならないのかを共に考えてみたいと思います。皆様はいつまでだと思いますか？

まず結論から言いますと、「従順」は神様が喜ばれる基準までするものであります。「従順」は私達たちの側から決められるものではありません。私たちの思いで「ここまですれば十分である」と考えるのは本当の「従順」とは言えません。聖書が語る「従順」は、神様の基準に私たちがより近づいて従うことです。

本日の聖書箇所では全身重い皮膚病によって苦しんでいる人が登場します。ところが、ここではその時代にはあり得ない光景が書き記されています。それは全身に重い皮膚病に患っている人が町に入っていることです。当時のユダヤ社会ではこのような病気の人は町に入ることが出来ませんでした。その病気が癒されるまで、彼らは社会から隔離される状況だったのです。もし町に入ろうとすれば、人々が自分に近づかないように大声で自分の病気を知らせなければなりません。なぜならば、その病気を罹った人が触った物を健康な人が触ると、その健康な人も汚れると教えられていたからです。それで、この事実を人々に知らせずに町に入ったならば、重い皮膚病の人は町の人々に石打をされる場合もありました。

このような厳しい状況の中で、この病気を罹った人はイエス様に近づき、自分の病気を癒して下さることを願っているのです。この重い皮膚病の人は、12節で「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言いました。この言葉から読み取れる意味は「あなたは生ける神様です」と言うことです。この時代の思想では、このような重い皮膚病を癒することができるのはただ神様お一人だけだと考えられていましたから、この病人の言葉は何と素晴らしい信仰告白ではないでしょうか？ ペトロがイエス様にした信仰告白を思い起こさせます。このような確信が無かったらこの病気の人は町に入ることはなかったはず

です。自分の病気の深刻さのため、イエス様が自分を遠ざける可能性もあったでしょう。しかもイエス様が自分の病気を癒してくださらなかったら、町の人々にどのような目に会わされても何も言えない状況でした。しかし、彼はただイエス様に近づきました。

イエス様はこの病気の人の信仰を見て彼の病気を癒して下さいました。その時、イエス様は彼に一言語られました。それは14節にあるように「イエスは厳しくお命じになった。だれにも話してはいけない。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物をし、人々に証明しなさい。しかし、病気が癒された人はイエス様が命じられた言葉に従わず、人々にこの出来事を話してしまったのです。それによって噂が広まり、イエス様はもうその場所に居ることができなくなりました。

神様が私たちに求めておられる「従順」は私たちの思いによって途中でやめてしまうものではありません。この箇所に書かれた病人は最後までイエス様に「従順」することが出来ませんでした。そのため、イエス様は人里離れた所に退くことになってしまいました。病気が癒されたこの人が最後まで「従順」出来なかったことによってイエス様の働きに大きな妨げが生じたのです。しかし、その反対にイエス様はこの働きによってご自分の使命を最後まで守り貫くことが出来ました。イエス様はご自分の思いではなく神様への思いに集中するために、祈りに専念されたのです。

聖書では、病気が癒された人の話を聞いて大勢の人々がイエス様の所にやって来たと書かれています。私たちの考えでは、噂が広まったためイエス様は今までよりもっと良い環境の中で神様の御言葉を伝えることも出来たはずですが。しかしイエス様はご自分がこの地に来られた使命を忘れないため、人々からの人気や名誉また富みを後にして人里離れた場所で神様に祈りを捧げられました。イエス様の使命はご自分をこの世に送られた神様の御心に従うことです。イエス様は神様に対して最後まで「従順」する姿を私達に教えられているのです。

私たちが毎週捧げる礼拝を通して、いつも主が喜ばれるその基準まで「従順」できる皆様でありますように心よりお祈り致します。

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座 ◆各種こどもクラス

◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)
関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャング)

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
※朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

個教会で生じた視覚障がい者に対する 差別的対応事件に対する在日大韓基督教会の態度表明

歴史を導かれ、いと小さき存在を慈しみ、またこの世界において貴く用いてくださる主のみ恵みと祝福が在日大韓基督教会の上に豊かにありますことを祈ります。

去る9月3日(土)、在日大韓基督教会所属のある教会におきまして、視覚障がいの方が盲導犬を伴い、教会堂内で開講されていた韓国語教室で学んでいた息子を迎えに教会の玄関に入られた際に、その教会の牧師が教会への犬の入場を注意し、「盲導犬は法律で保障されているのです」と視覚障がいの方が応答された後でさえ連れ出すよう求めるという行為がなされました。その場では牧師の不注意による言動であったとしても許しがたい差別的対応であったといえます。その視覚障がいの方はどれほど心を傷められたことでしょうか。牧師のその発言にその方は激怒され、牧師はそれに対して自分の発言の過ちに気づき、深く詫びようとしたと伺っています。しかしながら、その時点では、牧師の謝罪は、視覚障がいの方に受け入れられませんでした。その後9月5日(月)、その視覚障がいの方から抗議電話を受けた金柄鎬総幹事は、総会行政事務担当責任者として丁寧に謝罪し、このようなことが二度と起こらないように在日大韓基督教会の全国の教会に知らせると約束をいたしました。そして、速やかにそのことは実行に移され、この度の事件について全国の教会にEメールにて知らされ、また各教会においてもそのような差別的対応がなされないように厳重に注意が促されました。

総会はその後、9月7日、緊急に臨時委員会を開催し、この件についての経緯の確認、事態の問題性、そして今後の対応策に関して検討いたしました。その検討の結果、総会委員会は、今回の一牧師の視覚障がい者に対する差別的言動の背景に障がい者に対する配慮と思いやりの欠如があったこと、そしてこの問題は一牧師だけの問題ではなく私たちがいつでも起こし得る過ちであることを総会全体として深く受け止めて反省しなければならないと考えて次の事を決定しました。すなわち

- (1) すでに取り掛かれていた牧師による、視覚障がいの方本人への謝罪文と総会全教会向けの謝罪文に関する、総会委員会内での批判的検討を踏まえ、心からの誠意ある謝罪文に向けてさらなる熟考を促すこと。
- (2) 牧師が上記謝罪文をもって地方会会長、および総会総幹事とともに、視覚障がいの方に謝罪の訪問を行うこと。
- (3) 上記の謝罪文とともに、この件に関する在日大韓基督教会としての謝罪と反省を込めた態度表明文を作成し、総会全体で共有して共に悔い改めるために、総会機関紙『福音新聞』10月号に掲載すること。

以上の諸点を、総会委員会において確認いたしました。

今日、キリスト教会を待つまでもなく、一般社会にあっても盲導犬の公共施設への入場は法律によって保障されていることは世の常識であります。私たちの身近なところにこのような障がい者がおられるにもかかわらず、その存在に気付かず常識さえも失ってしまう障がい者に対する人権感覚の貧しさがこの度の事態を引き起こしたと思われるます。

マタイ福音書25:40において、王であることも知らず、飢え、渴き、貧しく、宿もなくまた囚われていた人々を見過ぐせず寄り添い、助けた「羊の群れ」の人々に向かって、主は、「これらの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」と言われました。さらに、王であることがわかっていたら助けたが、それに気づかなかったので、見過ごしにし、おろそかにした「山羊の群れ」の人々に向かって、主は、「この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。」(45節)と言われました。この主のみことばに深く学び、聞き従い、民族差別を受ける者や障がい者差別を受ける人々をはじめとする「最も小さい者」の立場に立ち、その人々に寄り添い助けることを教え、学んできたはずの在日大韓基督教会においてこのような事態を引き起こしてしまったことを、この度、この件の当事者となった牧師のみならず、わたしたちも在日大韓基督教会全体が猛省しなければなりません。なぜなら、この度のことは、ひとりある単独の牧師の問題にとどまることではなく、ともすれば、在日大韓基督教会に所属する教役者と信徒一人ひとりが自分自身を問い直さなければならないことといえるからです。視覚障がい者に対してのみならず、様々な差別が行なわれながら、その傷と痛みを受けた人以外は誰にも気づかれず、見過ごされてきたことがこれまでもいくつもあったのではないのでしょうか。したがって、この度の事件を契機に、わたしたちはこの問題を自分自身と自分の教会の問題としても、十字架の主の前で深く問い直し、わたしたちの教会の在り様が障がい者の人々にとってどうであったのか、これから忍耐強く検証していく必要があるのです。

その教会の牧師が電話にて総会長と総幹事に行なった説明から考えられることは、最初、牧師が犬を同伴されて教会堂に入られた人を目撃した瞬間に、盲導犬を伴われた視覚障がいの方かとまず想定してみる感性和、よく確かめて言動をなす慎重さを欠いてしまったようです。それは、そのような感性和と注意力を欠いたまま、「神聖な場に動物を連れ込んではいけない」という意識・価値観だけが先行し、露呈してしまった結果であろうと考えられます。わたしたちが本当に大切に守るべき神聖なる場所とは、人が歴史的に作り上げ、伝統的に守ってきた宗教的制度和世界観の中で「俗なるもの・けがれたもの」とみなされたものを排除して作り上げる「聖なるもの」ではなく、主ご自身が福音の中で教えられたみ旨に従うならば、差別や迫害に苦しみ、悲しみの中を生きてきた「最も小さな者」がまず、最も慰められ、いたわられ、その苦しみと悲しみが喜びに変えられる場所なのではないのでしょうか。(『金持ちとラザロ』のたとえ<ルカ福音書16:19～31>)

在日大韓基督教会は、この日本の地において在日コリアンの歴史の只中で、「最も小さい者の一人」としての叫びを挙げ続け、そしてその叫びが日本と韓国、そして世界の教会によって聞き届けられ、これまで共生の平和の天幕が広げられるように主に導かれてきました。そのようにして在日大韓基督教会は神の国の福音を学び、宣べ伝えてきたのです。そのかけがえなく貴い歴史を汚しゆがめてしまうことがないように、過ちを犯しやすいわたしたちは、これから絶えず十字架の主のみにひれ伏し、悔い改めながら、赦され、生まれ変わり、さらに主に導かれ、「最も小さい者」に寄り添い、共に生きる道を歩んでいくことを、心より祈り、願う次第です。

2016年9月8日

在日大韓基督教会 総会長 金 性 濟

◆9月3日、私たちが在日大韓基督教会に所属するある教会において、視覚障がいの方が同伴した盲導犬の教会への入場を、担任牧師が拒否するということが生じました。私たちは、総会委員会の総意として視覚障がいの方に9月10日、その教会の担任牧師と総会代表(総幹事)が真実な謝罪をし、視覚障がいの方は私たちの謝罪を受け入れてくださいました。

◆私たちはその後、担任牧師とその教会および所属地方会と話し合いを続けました。そして10月23日、視覚障がいの方を訪ね、担任牧師・総会長・総幹事が改めて謝罪して話し合い、上記の「在日大韓基督教会の態度表明」を掲載することになりました。

◆私たちが在日大韓基督教会は今後も、この問題を自分自身と自分の教会の問題として、十字架の主の前で深く問い直していきます。

青年会全協夏期修養会開催

喜び、痛みを分かち合い、共に伝道しあう青年



8月10日～13日、兵庫県のアルパインローズビレッジにおいて、第67回全国青年夏期修養会（夏修）が開かれ、各地の教会から合計25名の青年・牧師が参加した。

修養会は、李明忠牧師の開会礼拝「喜び痛み分かち合うために」（ローマ12：15～18）からはじまり、初日の夜には代表委員の白勝和による全協発題がおこなわれた。ここでは代表委員が、いまの日本における生きづらさや全協に対する思い、修養会の魅力などを語り、それをもとに参加者がいま思うことを分かち合う時間をもった。

2日目の午前には、中央委員によるミニ発題が行われ、参加者はグループごとに分かれて語り合う時間を共有した。午後にはスポーツ大会により、ドッジボールなどで汗を流しながら交流を深め、夕食後にはバリロ礼拝（8・15礼拝）として、許伯基牧師の「悪を行うことをやめ、善を行うことを学べ」（イザヤ書1：10～20）という題のメッセージをお聞きした。

3日目には「みんなちがってみんないい」（ルカによる福音書5章17節～26節、10章25節～37節）という李善恵牧師の主

題講演のなかで、即席でグループ分けをして劇をつくり、それぞれの成果を発表しあった。講演では「エニアグラム」（性格診断）を通して、私たちひとりひとりが異なる存在であることの素晴らしさが確認され、「個の10歩より、全体の1歩」というメッセージと、平和の祈りが共有された。夜には恒例のスタンツ大会が開かれ、3つの分団が修養会で学んだことを発表した。どの発表もテーマに沿った独創的でユーモアのある素晴らしい内容であった。最後の夜は、青年同士が語り合うなかで、いつのまにか更けていった。

4日目には、全体の分かち合いを行い、私たちが三日間で感じたことを分かち合った。閉会礼拝では、金迅野牧師が「他者の痛みにつながる」（ヨハネ15：5）という説教により修養会を締めくくった。最後には参加者みなで大きく賛美し、涙し、明日も教会へ御言葉を聞く・主に祈ることを誓い、恵み豊かな時を過ごすなかで終わることができた。各プログラムの初めには許伯基牧師・李明忠牧師任（ギター＆カホン）、ピアノ伴奏のできる青年による賛美チームも生まれ、私たちの心を主に向かわせ落ち着かせるようなとても恵まれた時間を共有することができた。恵み深い3泊4日のひとときに、感謝する。

（報告：白勝和）

《京都教会》

金徳洙名誉長老が召天



京都教会、金徳洙名誉長老が9月12日、入院中の病院で天に召され、葬儀は家族葬として行われた。享年88歳。

故・金徳洙長老は1972年京都教会の長老として将立され、京都教会、関西地方会ために長年奉仕され、1995～1997年には総会副総会長として仕えられた。

WCC「人種差別に正義をもたらす連帯」(Racial Justice Solidarity) プログラムに参加して(上)

— 4月19日～27日 —

金 必 順（副総会長 / 堺教会）

不安であった。9日間に12回も飛行機に乗るというスケジュールに加え、どのような会議か、誰が参加するのか、前もっての情報はなかった。WCCの担当者にメールで問い合わせても、「あなたが来ることが重要なんだ」という返事であった。

最初の訪問先は、サウスカロライナ州チャールストンの中心街にあって、アフリカにルーツを持つ人々がよく集まるエマニュエル・アフリカン・メソジスト監督教会であった。

昨年6月、水曜日の聖書勉強の最中、突如、21歳の白人男性が入ってきて銃を乱射し、牧師を含めて9人を殺害するという痛ましい事件が起きた。黒人への偏見と憎悪にかられ、白人の優位性を守るために誰かがしなければならないとして犯行に及んだという。

私たちが訪問した日も水曜日で、集会室ではお年寄りの女性たちがのんびりと編み物をしていた。ふと、在日一世のハルモニたちに出会ったような気になって話しかけると、優しく微笑んで応じてはくれるものの、どこか寂しげであった。

この教会を舞台に、黒人コミュニティが負った深い傷を、いかに癒すべきかとの模索と対話が、白人と共に進められてきた。白人優位の社会や教会は正義ではないとの共通認識、選挙によってシステムを変える必要性、それだけでなく、教

会も自分自身も変わらねばならないと、議論は進んだのであった。

その日、癒しの祈りを捧げたいと、イギリスから一人の牧師が聖書勉強に出席していた。自分のいる所で祈ることも大切だが、このように現場に来てささげる祈りは、深い慰めと力になると実感した。

アメリカでの1週間の旅は、人種差別で被害を受けた人々や教会を訪問し、そのうえで教会が果たしている和解と正義のための働きをどうつなげて行けばよいのかを学ぶ巡礼であった。（次号に続く）



2年
01
6度

統一教原理問題 全国連絡会開催

2016年度の統一原理問題全国連絡会が9月1日(木)～2日(金)、愛媛県松山市道後にある「ホテル椿館」ならび松山城東教会にて開催され、在日大韓基督教会からは通訳者として姜章植牧師(品川教会)、神学考試委員会の金承熙牧師(岡山教会)が参加した。今年度は、統一協会問題・カルト問題に長く取り組まれている卓志雄氏(日本聖公会司祭)、卓志一氏(釜山長神大学教授)、根田祥一氏(クリスチャン新聞編集顧問)を講師として招き、統一原理問題ならび異端についての公開講演がなされた。またそれらの講義を通して、最近の日本・韓国における異端・カルトによる被害状況や対策方法(注意事項)なども報告された。

二日目は日本基督教団のそれぞれの各教区(北海～沖縄)から統一原理・異端に対しての取組みに関する報告があった。そして最後に、総括協議の中でパネルディスカッションが行われたが、20～30年にも及ぶ「異端からの脱会運動」に携わってこられた3名の代表者の報告と意見を聞いた後、質疑応答があった。この連絡会(研究会)には11名ほどの韓国の大韓イエス教長老会(PCK)の異端対策委員が参加され、協議を通して多くの「異端に対する対策案」を示唆してくださった。その中から、「韓国は社会的問題として異端を扱うのと共にそれらの問題は教会規則ならび組織神学者の優れた学者の意見を基準として判断していく方法があり対処法が明確化されている」といった力強い意見があった。また「何よりも異端からの攻撃を防御する方法(すなわち教会を守る方法)は『予防』である」との意見もあったが、「予防」するためにはその「兆候」も熟知していなければならない。しかし参加者たちの多くは異端・カルトに対する今後の対策(予防)のための有意義な時を過ごしたに違いない。

在日大韓基督教会も現在、神学考試委員会が「異端」に関する冊子を作成しているが、あまりにも変幻自在に姿や方法を変えて侵入し正統教会に入り込んで来ようとする「異端」に関して私たちはあまりにも無知であるので、より多くの協議会や研究会などが今後、総会や地方会レベルで定期的に行われなければならないであろう。

(報告: 金承熙牧師)

西部
女性
会

一日研修会を開催 神・人間関係における苦痛の恵み

西部地方教会女性連合会の「一日研修会」が7月14日(木)午前11時より神戸東部教会において開催され32名が参加した。開会礼拝では韓承哲牧師(神戸東部教会副牧師)による「ツエロフハデの娘たちの申し出」(民数記27:1～11)と題してのメッセージがあった。

昼食は、神戸東部教会女性会の心のこもった美味しい料理を共にいただき、午後からの研修は韓承哲牧師を講師として迎えて、テーマ「神・人間関係における苦痛の恵み」の講義があり、恵み豊かな研修会であった。

(報告: 俞貞恵)



<女性会総務赴任挨拶>



8月1日から全国教会女性連合会の総務として招聘されました石橋真理恵伝道師です。

生まれ育った横浜を離れ、また伝道師として仕えていた横浜教会を離れるのは、寂しさと大きな決心が必要でした。しかし、神の御心はどこにあるのかと祈る中、

全国教会女性連合会の総務の働きを引き受けることが神の御心であり、導きであると御言葉を通して神に示され、総務の働きを引き受ける決心を致しました。

まだまだ未熟で、至らない点も多々ありますが、このような者を神が用いてくださることに感謝し、与えられた働きを忠実に、そして誠実に努めていきたいと思ひます。

また、主日は堺教会の伝道師として教会学校の働きを任されることになりました。次世代を担う子どもたちが御言葉を通してイエスキリストと出会い、信仰を持って成長する助け手になりたいと思ひます。

留学便り

在日大韓基督教会のために祈る神学生として

高 大 韓(中部地方会神学生)



ハレルヤ。同志社大学の神学部を卒業し現在、韓国の長老会神学大学校神学大学院に通っています高大韓(コ・デハン)と申します。

私は韓国で生まれましたが、父の仕事の関係で小学5年生の時、日本に移住することになりました。家族全員が名古屋教会に通い、小学校から大学まで住み、日本での生活に慣れていた私は韓国で勉強することになって、最初はこの生活に慣れることで必死でした。文化の違いに戸惑うこともありました。しかし、今はすっかり慣れ、大学院で勉強も、また教会での奉仕も楽しくやっております。教会はソウルの恩平区にある西門教会で幼稚園部を教育伝道師として奉仕しています。み言葉を伝える時、子供たちの言語に変え、み言葉

を伝えるのが少し難しいですが、かわいい子供たち、たくさん先生たちと一緒に楽しくやっています。

大学院での勉強は難しい部分もあります。勉強をすればするほど、自分自身が未熟であることをつくづく感じますが、その反面、勉強をすればするほど神学の勉強が楽しく聖書の知識を習得するときにはとても楽しいです。神様に勉強できることへの感謝のお祈りを毎日ささげながら頑張っています。

残り1年半の大学院での生活をより厳しく自分を追い込み、また一日一日を大切にしていきたいと思ひます。また勉強をしながら在日大韓基督教会のために祈りする神学生であり続けたいです。牧師になるための歩みをする神学生のためにお祈りしていただければすごく力になると思ひます。よろしくお祈り致します。